

東日本大震災におけるボランティア活動参加学生の研究 A study of volunteer activity participation student in the Great East Japan Earthquake

1K09B099

指導教員 主査 中村好男 先生

佐鳥 翔太

副査 荒木邦子 先生

【緒言】

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、日本の経済・文化・生活に多大な影響を及ぼし、人々の価値観を変えるきっかけとなった。未曾有の事態の中、震災直後から多くの学生が被災地ボランティア活動を行い、様々なボランティアツアーまでも組まれるに至った。

従来の震災関連の先行研究は地震や津波・放射線の研究や復興に関連したものが多い。また、現地で行われたボランティア活動等の報告事例も数多く存在している。どれも被災地や被災者に焦点を当てた研究である。それらに対し、本研究では、被災地ボランティア活動を行った学生に焦点をあてボランティア活動を実施した側の意識や行動の変化について明らかにしていきたい。先行事例の少ないボランティア活動を実施した側の研究をすることで、ボランティア活動者数が減少している現状において、継続的な復興支援や効果的なボランティア活動のあり方を考察していく上で有効であると考えられる。

したがって、被災地ボランティア活動に参加した学生にボランティア活動の概要、ボランティア活動に参加したきっかけ、ボランティア活動内でのコミュニケーションとコミュニケーションを通して感じたこと、ボランティア活動を通して変化のあったこと、ボランティア活動で印象に残ったこと、今後ボランティア活動で行ってみたいことの調査を行い、ボランティア活動に参加したきっかけは何であったか、ボランティア活動によって学生に変化はあったか、どのような活動内容が学生に大きな影響を与えたかを明らかにすることで、単発で終わらないための有効なボランティア活動の要素について検証を試みた。

【方法】

震災後にボランティア活動に参加し、調査の同意が得られた学生4名を対象に半構造化インタビューを行った。インタビューは調査対象者が慣れている場所を選定し、筆者が行い、調査対象者の同意を得たうえでインタビュー内容を録音した。

インタビューでは、ボランティア活動の概要(ボランティア活動日程・場所・活動内容)、ボランティア活動に参加したきっかけ、ボランティア活動内でのコミュニケーションとコミュニケーションを通して感じたこと、ボランティア活動を通して変化のあったこと、ボランティア活動で印象に残ったこと、今後ボランティア活動で行ってみたいことの以上6つのテーマで実施した。

インタビュー実施後、録音データを元に逐語録を作成し、記述

データとした。4人それぞれの記述データの中から、調査項目ごとに抽出を行い、意味内容ごとに分けた。意味内容ごとに分けた調査項目のデータから、本研究で明らかにしたい、ボランティア活動に参加したきっかけ、ボランティア活動による学生の変化、学生に影響を与えたボランティア活動との関係を見ていった。

【結果及び考察】

本研究から以下のことが示唆された。

第一に、被災地に行った友人が身近にいることや被災地の団体等、被災地に知人がいるということがボランティア活動に参加するという行動を起こす有力な動機となる。今後多くの学生がボランティア活動に参加するために、この要因が大きな影響力を持つ可能性が示された。

次に、ボランティア活動は学生の意識や行動に変化を与えていた。普段の生活から離れたボランティア活動での体験がボランティア活動参加者それぞれの意識や行動に与える影響は大きく、自分自身の生活観から、日常生活での行動にも影響を与える可能性が示された。ボランティア活動は被災地・被災者のためだけではなく、学生へ肯定的な変化を与え、ボランティア活動に参加することは学生にとって様々な刺激を得て成長する機会となるのではないかと考えられる。

最後に、被災地の人とのコミュニケーションと景色がボランティア参加者の学生に大きな影響を与えた。学生の変化のきっかけとなる影響の要因に被災地の人と景色が大きく起因していると考えられる。今後ボランティア活動で行ってみたいことについての回答からも「また会いたい」等が得られ、被災地の人が与えた影響が大きかったことが示唆される。

以上から、今後より効果的且つ、息の長いボランティア活動を学生が行うためには、被災地に行った身近な友人の存在・被災地での現地の人との会話等のコミュニケーションが重要であると考えられる。また、ボランティア活動が人のためだけではなく、自分自身のためとなる成長の機会として学生に認知されていけば、学生のボランティア活動に対する姿勢が変わっていくのではないだろうか。